

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

一橋大学

前期日程

科目

国語

試験時間	100分	満点(配点)	商 125点、経済・法 110点、 社会 180点	出題数	現代文 2題、近代文語文 1題
------	------	--------	------------------------------	-----	-----------------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

問題一、問題三に大きな変化はないが、問題二は昨年度とは異なり近代文語文から出題された。しかし全体に記述問題が本格化し、読解と表現に苦勞する設問が増えたことが特徴と言える。また三題とも現代の古典とも呼ぶべきものであり、その文体に馴れていないと手こずるかもしれない。

〈合格への学習対策〉

問題二では近代文語文、古文、現古融合文のいずれから出題されても対応できるように、過去の出題例を研究して十全の対策を心がけておきたい。問題三は年々まとめにくい文章が選ばれるようになっており、添削を受けるなど十分な練習をする必要がある。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
問題一	現代文(評論)	鈴木大拙 『東洋文化の根底にあるもの』	東西の文化の比較を論じた文章。	標準
問題二	近代文語文(評論)	福沢諭吉『学問之独立』	政治と学問の関係について論じた文章。	標準
問題三	現代文(評論)	田中美知太郎『学問論』	文字、書物の功罪を論じた文章。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
問題一	問い一	漢字	これまでの十題から五題に減少した。	標準
	問い二	慣用表現の意味	かつての設問が復活した。	標準
	問い三	記述・理由	対比の論理を踏まえる。	標準
	問い四	記述・意味	設問の条件の処理の仕方が難しい。	やや難
	問い五	記述・意味	論旨から傍線部の比喩を理解する	標準
問題二	問い一	空欄補充	解答欄には「□□と□□」とある	やや易
	問い二	記述・意味	「具体的に」という条件に答える。	やや難
	問い三	記述・理由	「今日の時勢」を確認することからはじめる。	標準
	問い四	記述・理由	論旨をまとめる	標準
問題三	問い	記述・200字要約	構成は読みやすいが、二面性を的確にまとめることが難しい。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。